

HOW?で切り込もう&切り込まれたら大真面目に答えよう

皆さんの周りにこんな人はいますか？小テストに毎回合格する人、物知りな人、いつも元気な人。「あの子すごいよね〜。」「さすがやわ！」と友達同士で話したり、心の中で思ったりすることはあると思いますが、HOW?（どうすれば?）と尋ねる人は何人くらいいるのでしょうか。また、そう尋ねられた時に、「わからん、適当やて〜。」などと言わず、自分の取り組みを振り返り、大真面目に答える人はどれくらいいるのでしょうか。こういうやり取りをしてこそ、学校に通う意味があります。得意なことがみな違うからこそ、教え合い学び合うことができます。

冒頭にあげたすごいと囁かれるような人の中で、「物知りな人」に焦点をあててみると、もともと好奇心旺盛で、本やネット上の記事を読むのも億劫ではないという資質とは別に、新しい情報を目にするまでの手順を簡単にする工夫や、それを読むタイミングや量などを自分の生活の中に上手に組み込んでいることもあります。また、自分が得た情報を周りに話すことでその情報が記憶に残りやすくなり、周りから反応をもらうことで、自分の考えがさらに深まるなどのよいスパイラルをうみだしています。

「いつも元気な人」も同様に、元気の源である体調管理や、何事もプラスに捉える考え癖にヒントがありそうです。まずは真似をしてみることで、うまくいかない原因を見つけられるといいと思います。

さて、1・2年生の進路説明会を終え今週は3年生ですが、追加情報・最新情報があります。

■岐阜県学寮と岐阜県学生会館の違い

東京の大学に行きたいが一人暮らしに不安があるという人に食事付きで岐阜県出身者が共同生活を送る東京の学生寮について紹介しました。「岐阜県学寮」の方は、東京ドームなどがある文京区にあり、男子専用の寮です。一方、八王子にある「岐阜県学生会館」は少し中心部からは遠いですが、男女ともに入居可能です。これ以外にも全国各地の学生寮については“学生会館.com”などがあり、Dormy というサイトでは合格前エントリーも可能です。



■名古屋市立大学が看護学部定員を80名から120名に増員すると発表

先週末に、文科省に申請中だったものが正式に認可されたとの連絡が学校にきました。

これに伴い、学校推薦型選抜Bは募集人員35名→60名に変更、一般選抜は45名→60名に変更されました。1,2年はもちろん、高3生、チャンスが広がりました。（桑原華）

『3年の窓』

問「説明する」という言葉を説明せよ

皆さん、「『説明する』と言う言葉を説明せよ。」と言われたら答えられるでしょうか。フランスのグランゼコール(Grandes Écoles:フランス特有の高等教育機関。一般に入学試験のない大学=ユニベルシテ(Universités)よりも上位の教育機関として見なされ、エリート養成機関としての側面が強い)の入試問題で出された問題だそうです。(問題の出典:山崎晶子「『説明する』という言葉に6時間かけて説明せよ…フランスのエリート教育機関の「難関すぎる問題」の解き方」プレジデント社)

こんな問題が出されると面くらいますよね。フランスの受験生たちも同じ気持ちだったようで、試験日のSNSは盛り上がっていたようです。しかしこの問題、「哲学」の学習指導要領で提示された「科学」というテーマについて学んだことを踏まえて出題されているようです。あれれ?哲学は文系で、科学は理系じゃないの?と思った人……甘いです。大甘です。クラブジャムン(インドのお菓子、世界一甘いと言われる)くらい甘いです。

世界の潮流としては、文系理系で分けるのはいささか不適當と言わざるを得ないでしょう。そもそも哲学は「人文科学」、我々が日ごろ言うところの科学は「自然科学」に類されるものです。両方とも科学ですね。思考アプローチの方法が違うだけです。

事実、かつてSTEM(Science, Technology, Engineering and Mathematics)教育と言われていたものは、今日ではArtが追加され、STEAM教育と呼ばれる事が多くなりました。ここでいうArtは、芸術のみならず、いわゆるリベラルアーツ(教養)を含む概念です。

今日のVUCA(Volatility, Uncertainty, Complexity and Ambiguity)な世の中において、種々の問題に対応するために、文系理系にとらわれない科目横断的な思考力こそ必要なのではないでしょうか?

(文責:桑原篠)

『2年の窓』

君たちにとっての大きな石はなに？

手元にバケツがあるとしましょう。このバケツの中に大小さまざまな大きさの石や砂利を入れていきます。できるだけ大きな石をバケツの中にたくさん入れるためには、どうしたらいいでしょうか？



答えは簡単です。最初に大きな石をたくさん入れて、あとで小さな石や砂利を入れればいいんです。最初に砂利を入れてしまえば、大きな石を入れる余裕はないです。

これは、なんの例え話かわかりますか？

それは時間の使い方です。みんなに平等に与えられるバケツは時間を、石の大きさは予定の重要さを表しています。君たちはどんな時間の使い方をしていきますか？ゲームをしたり、スマホに夢中になったり、はたまた、受験や試験に向けて勉強に打ち込んだり、部活に一生懸命になったり。

君たちの持っているバケツは思ったより大きく、思ったより小さいです。

「時間がない！」と焦る人。いいえ、そんなにバケツは小さくありません。砂利をどかしてみてください。「まだ先の話だし」と余裕な人。いいえ、そんなにバケツは大きくありません。すぐにバケツはいっぱいになります。

自分にとっての大きな石を最初にたくさん入れましょう。そのあと、すき間に小さな石や砂利を入れていけばいいんです。でないと、すぐにバケツは砂利でいっぱいになってしまいますよ。君たちの高校生活というバケツは、もう半分くらい埋まっています。

(文責：後藤)

『1年の窓』

When did Noah build the ark? (ノアはいつ方舟を作ったんだい。)

「スパイ・ゲーム」(原題 *Spy Game*・米・2001年)という映画があります。主人公のCIA (アメリカの対外情報機関) ベテラン局員であるネイサン・ミュアー (演：ロバート・レッドフォード) は、かつての部下だったCIA 職員トム・ビショップ (演：ブラッド・ピット) が中国で捕らえられた事を知ります。ビショップを見捨てようとするCIA という組織の中でたった一人、ミュアーは彼の救出のため奔走する—というあらすじの映画です。

表題 (When did Noah build the ark?) のセリフは、常に用意周到に行動するミュアーが、その周到ぶりをからかう彼の秘書に問いかけたものです。

ところで皆さんは、旧約聖書の中に出てくるノアの方舟 (はこぶね) 物語をご存知でしょうか。神が作った人間が地上に増えた頃、地上の墮落ぶりを見てこれを嘆いた神は大洪水を起す決心をします。しかし同時に、正しい人であったノア (Noah) には方舟 (the ark) を作るようお告げをし、そのお告げに従ってあらかじめ方舟を作っていたノアとその家族は大洪水を生き残ったというものです。

そんな物語を下敷きにした表題の問いに対して、秘書は首をすくめるばかりで何も答えられません。するとミュアーは “Before the rain, before the rain.” (雨が降る前、降り出す前。) と教えます。

どうでしょうか。準備することの大切さを言っていると思いませんか。何事も直前になってからでは (雨が降り出してからでは) 遅いのです。特に1年生の皆さんにとって入試は2年後必ずやってきます。今から先を見据えて早め早めに行動するよう少し意識してみましよう。

(文責：塩原)